２０２１年度国立天文台TMT戦略基礎開発研究 募集要項

国立天文台TMTプロジェクトでは、将来のTMT観測装置の実現に向けた基礎開発研究計画を募集します。TMT計画において日本が重要な貢献を果たすためには、大学等の研究者の皆さんが、独自性の高いアイデアや強みのある技術を活かしてTMTの開発に参加することが極めて重要であり、本開発研究はそのような活動を支援することを目的としています。2021年度の予算は総額1,000万円を予定しています。

１．求める研究計画像

将来的なTMTの装置開発計画に関連のある課題、特に第二期観測装置の実現に寄与する開発項目や、科研費等の既存の競争的資金に必ずしもなじまない、萌芽的な研究開発に重点的に配分する方針です。また、狭い意味での装置開発に限らず、データ処理やアーカイブ、他の観測施設との連携に関する研究や小規模な研究集会など、将来のTMTによる科学研究に資するアイデアがあれば、積極的にご提案頂きたいと考えています。

国際的な協力関係がある課題については、申請者がその分担部分の実行に責任を持つ形でのご応募をお願いします。

（なお、TMT第二期装置については、

<https://www.tmt.org/page/second-generation-instruments>

をご覧ください。）

２．応募資格

日本国内または海外の大学・研究機関に所属する研究者

３．応募方法

別紙様式による提案書を必ずPDFに変換の上、メール添付にてご送付ください。

　提出先：ck.yasui(at)nao.ac.jp

　提出期限：2021年6月18日（金）正午 （日本時間）必着

４．審査結果通知

　応募課題の審査は、国立天文台TMT科学諮問委員会が設置する審査委員会にて行います。審査結果は2021年7月中旬頃に、代表者宛に通知します。

５．注意点

* 研究経費は国立天文台での執行が基本となります。研究遂行上必要な場合は、本機構と代表者所属機関との間で共同研究契約を締結した上で、所属機関にて執行することが可能です（旅費のみの執行は除く）。なおこの場合、所属機関に対する間接経費の配分はありませんので、経理担当の方とよくご相談の上応募ください。希望される場合は、予め所属機関の事務担当部署の了承を得た上で、提案書の所定欄にてお知らせください。
* 本経費から人件費を支出することはできません。
* 研究経費の執行は2022年3月中旬までに完了するようにして下さい。
* 申請者が他の経費を用いて遂行している研究課題に本研究経費を加えることで、TMTに資する研究開発を遂行することも本経費としては可能です。そのような申請を行う場合は、他の経費の執行上の制約を確認の上、申請書にその内容が分かるよう記載して申し込んでください。
* 本研究によって萌芽的研究開発を行う提案の場合、本経費での開発研究から、科研費等の競争的資金獲得への道筋（TMT向けの開発の前に実施する、他の望遠鏡向けの装置開発等の計画を含む）について「研究の推進方法」の中で説明して下さい。既に他の競争的資金を獲得している場合は、「科研費等、他の経費の状況」の欄に本経費との関係を含めて記述して下さい。
* 研究組織には、国立天文台の共同研究者を1名以上入れて下さい。これまでに国立天文台の共同研究者の参加がない場合には、国立天文台TMTプロジェクトまでお問合せ下さい。
* 国立天文台先端技術センター[[1]](#footnote-2)の設備等を利用する場合や、先端技術センターの職員と協力した研究開発を進める計画の場合は、事前にatc-office@ml.nao.ac.jpに相談のうえ、提案書にその内容を記載して下さい。必要の場合、先端技術センターの共同開発研究・施設利用の申請を別途行って頂きます。
* 日本時間6月4日に、「TMTに向けた開発ミニワークショップ」をオンラインで開催し、本研究経費についてもご紹介します。tennet等に案内を流しておりますので、是非ご参加下さい。

６．採択課題の採択と評価

応募頂いた申請に対し、国立天文台TMTプロジェクトおよびTMT科学諮問委員会の構成員から成る審査委員会で審査を行い、採択課題を決定します。

年度末までに別途定める様式に基づいて研究成果の報告書を提出して頂きます。その後ヒアリングを実施することがあります。

７．研究成果における謝辞の表示のお願い

TMT戦略基礎開発研究経費により得た研究成果を発表する場合は、本研究経費により助成を受けたことを必ず表示してください。

８．お問い合わせ先

　　自然科学研究機構 国立天文台TMTプロジェクト　安井千香子

　　　E-mail：ck.yasui(at)nao.ac.jp

1. http://atc.mtk.nao.ac.jp [↑](#footnote-ref-2)